

# 聖書

---

シリーズ～新約聖書入門～

2017/1/1 元旦礼拝

# 宗教改革500周年



## ● マルチン・ルター

- 法律家を目指していたが、落雷の恐怖で死を予感し、修道士になる
- 修道士として祈りと聖書研究の日々を送った
- 1517年、「95ヶ条の論題」を貼り出し、「贖宥状（免罪符）」に対する疑問を投げかけた

## ● 宗教改革の3大原理

- **信仰のみ**: 信仰によって義と認められる
- **聖書のみ**: 聖書こそが最終的権威
- **万人祭司**: すべてのクリスチャンが神に仕える

寛師メッセージ

## 宗教改革500周年



1517年10月31日、マルチン・ルターはヴィッテンベルク大学の聖堂の扉に『贖宥状の意義と効果に関する見解（95ヶ条の論題）』と題する公開質問状を貼り出した。「贖宥状（しょくゆうじょう）」とは、カトリック教会（西方教会）が発行していた罪の赦しや軽減を与えるための証明書のこと、免罪符とも呼ばれている。ルターは、当時ヨーロッパ全域で大々的に販売されていた贖宥状に対して疑問を投げかけ、このことを契機として宗教改革運動が始まったのである。

1483年、ドイツのザクセン地方で生まれたマルチン・ルターは、法律家になるべく大学で学んでいたが、1505年、激しい雷雨に遭い、落雷

の恐怖に怯えながら修道士になる決意をした。修道士として苦行禁慾生活を送りつつも何か満たされないものを感じていたルターの心をつかんだのは「ローマの信徒への手紙」であった。祈りと研究の中で、ルターは、人はイエス・キリストを信じる信仰によってのみ義とされる（信仰義認）のだという真理にたどり着き、心に平安を得た。

キリスト教の本質に立ち帰ったルターが改めて聖書を読み直していくうち、当時のカトリック教会の問題点が次々にあぶり出されていった。まずルターが取り上げたのが贖宥状とそれを許可しているローマ教皇であった。かつて法律家を志したルターは、この問題を95の分かり易い論点にまとめ公開したのである。この公開質問状はすぐにドイツ語に翻訳され（最初はラテン語で書かれていた）、既存のカトリック体制への不満がくすぶっていたドイツ国内で激しい議論を巻き起こした。

1518年10月、ルターはアウクスブルクでカトリック教会からの審問を受け、論題の撤回を求められたが、「聖書に明白な根拠がない限りどんなことでも認められない」と主張し、拒絶した。1521年、ルターはカトリック教会を正式に破門されたが、彼の考えに賛同する多くの人々により“プロテスタント運動”として、ヨーロッパ全域に波及していった。

ルターのもう一つの功績は聖書翻訳である。カトリック教会では長らくラテン語訳聖書だけを公認聖書としていたが、聖書を唯一絶対の権威であると考えたルターは、すべての人が母国語で聖書の言葉に触れるべきだと考え、原語から聖書全巻をドイツ語に翻訳し、出版した。

「人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」ローマ3:23-24

## テモテへの第2の手紙 3章14～17節

だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。

# 私たちを救う唯一の書

- 全ての人は罪から救われなければならない
  - 生まれつき神から離れ、罪に支配されている
- 罪から救うことができるのは、イエス・キリストただお一人である
  - 「キリストは、…この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです。」ガラテヤ1:4
- 聖書だけが救われる方法を教えている
  - 「ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです。」

# 信仰に留まり続けなさい

- 多くの人々の祈りと苦労を経て届いた信仰
  - テモテの信仰は祖母と母から受け継いだ
    - 「その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りました」1:5
- 幼い頃に親しんだ聖書の教え
  - 多くの人々が子どもの頃に聖書に触れている
  - 教会学校・教会幼稚園・ミッションスクール…
- 残念ながら信仰から離れる人が多い
  - 世界一クリスチャンになることもクリスチャンであることも困難な国

# 私たちを成長させる唯一の書

- 聖書は「神の霊の導きの下に」書かれた
  - 1600年の間に40人以上の著者が書いた66の書卷に矛盾がない!
  - 神が背後にあって監督された
- 聖書は最高の教師である
  - 教え: 人生のマニュアル・正しい情報
  - 戒め: 過ちを犯さないようにしかる
  - 誤りを正し: 曲がった部分をまっすぐにする
  - 義に導く: 正しく歩めるように訓練する

# 善い業のために整えられる

- 何が「善い」のか分からない時代
  - 民族主義は終末の証し
  - 「民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。」マタイ24:7
- 「善い業」とは神の目に“よし”とされる業
  - 聖書を正しく読むことから導き出される(ルター)
- 神に仕える者として整えられる
  - この世で認められるためでも、豊かになるためでも、立派な人になるためでもない!



# 聖書のみ!

- 聖書だけが霊の糧

- 「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」マタイ4:4

- 聖書だけが本物の救いを与える

- この世が与える一時的なごまかしではない

- 聖書だけが正しく育てる

- 教え,戒め,誤りを正し,訓練する

- 聖書を正しく読み続けましょう

- ×おみくじ読み・お薬読み・おやつ読み
- ○まいにち・まんべんなく・まめに読む